



2007年8月21日 コモンカフェにて

人の幸せは居場所で決定すると聞いたことがある。自分の居場所を探し、そこを理想の場所にしていき、そしてそこから社会に発信することで幸せが手に入るという。カフェを持ちたい...自分の歌を聴いてほしい...さまざまな思いで居場所を求めている“表現者”に、山納洋さん(36歳)は居場所作りに進み出す足掛かりともなる「実験の場」を提供する。そして「他者と出会い、自分自身が変わっていくという経験をする」との大切さを唱える。

#### 表現者に実験の場を

昼間はカフェ、夜はライブバーなどとして日替わりのマスターが運営する「コモンカフェ」。仕掛け人の山納さんは「フードを提供するという表現、歌を披露するという表現など、いろんな表現ができる場所をみんなでシェアしてみよう」と、有志メンバーとともに2004年4月にオープンした。

開業資金は「カフェ債」(利子はコーヒー券)を発行するなどして集めたが、約1千万円は個人で借り入れて用意。賃料を取らず、主にドリンクの売上に対する「最低保証料」で収入を確保している。

マスターは登録制で、さまざまな表現者が夢を形に、またその“試し打ち”をしている。「何となくやりたいと思っていたことが、ここで具体的になったというマスターもいる。自分のやりたいことが試せて次の道が見え、その道に進み出せたらいいかな」。表現に関わる人たちが抱えるジレンマを解消する仕組みを持ったカフェとして機能していることを喜ぶ。

#### 現代版サロンづくりに奔走

カフェの運営は、本職ではない。大学卒業後

に入社した大阪ガスに籍を置き、複合文化施設「扇町ミュージアムスクエア」(03年閉鎖)や創業支援施設「メビック扇町」でのマネージャー職と並行して取り組んできたものだ。人と人とながら“場”への興味が活動の源泉にある。

ほかにも、参加者同士がテーマにそって意見交換するトークサロンや、コモンカフェの土台ともなった日替わりマスター制のバー、世代を超えたつながりを試す六甲山でのカフェ、国籍を超えた交流サロンなど、「シングلزプロジェクト」と名付けて、さまざまな“場”をつくってきた。

#### 新たな土壌で

「シングلزプロジェクトは小さなパス回し。お互いに顔の見える関係よりももう少し大きなことを動かせないか」という思いが生まれてきた矢先、「文化立都・大阪」の創生を目指す大阪21世紀協会のコラボレーションセンター・チーフプロデューサーのポストに就くことになった。

メビック時代に手掛けてきたことを土台に、大阪のブランド力向上、国内外に向けた大阪のイメージアップ戦略などに取り組んでいる。「今の大阪に必要なものは何か」を考え、企画・提案を重ねる。

最近では「かきむしられるような衝動」で始めた英語の勉強のほか、世界史や地理の教科書を引っ張り出して読んでいるという。「人間が社会をどうつくるのかを知るためのサンプルが沢山あって、とても興味深い」。食欲なまでの好奇心、求知心は限りがない。

(文・江中咲紀 / 表紙写真・高島悠介)

CLOSE  
クローズアップ  
UP

# “他者とのかかわりから 自己実現を導く、 場の創造プロデューサー”

#### プロフィール

(財)大阪21世紀協会  
コラボレーションセンター チーフプロデューサー

やまのう ひろし  
**山納 洋**さん



1971年西宮市生まれ、芦屋市在住。93年に大阪ガスに入社後、神戸アートビレッジセンター勤務を経て、97年から2003年の閉鎖まで扇町ミュージアムスクエアのマネージャーを務める。03年から「メビック扇町」のコラボレーション・マネージャー。06年4月から大阪21世紀協会にて文化プロデューサーの仕事に就く。一方で、トークサロン「扇町Talkin' About」、日替わりマスター制のバー「Common Bar SINGLES」やカフェ「common café(コモンカフェ)」などをプロデュース。6月に著書『コモンカフェ 人と人が出会う場のつくりかた』(西日本出版社)を出版。これまでの活動を紹介し、コモンカフェの運営概要を掲載。カフェの独り立ち、日本中への広がりを期待する。問合せ先はコモンカフェへ。メールアドレスは下記のとおり。  
singles@do.ai